

広島大学における若手研究人材のキャリアパスの現状と課題

広島大学の理工系の研究科においては、博士の学位取得者は、博士研究員や大学教員等の職に就くより、企業や研究機関等に就職する割合が高く、比較的、多様な職種に就いています。一方で、次のような課題があります。

博士課程後期の学生は、就職に際して、各自の専門分野や大企業に固執しがちである。

博士課程後期に進学するより、博士課程前期を修了して就職する学生が多い。

博士課程後期に在学する女性の割合が少ない。

博士研究員の任期満了後、さらに続けて博士研究員のポストに就くことが多い。

就職に際して、産学官のパイプが生かされていない。

これら課題の問題点を分析し、解決していくことが必要です。まず、学生に対して、自分を生かす職場は一部の目立つ企業だけではないということを理解させます。また、博士課程の学生だけでなく、博士研究員も含めて、研究人材の供給源としての広島大学という視点を持って企業との連携を進めます。

広島大学の理工系では、博士課程後期に進学するより、博士課程前期で企業に就職する学生が多くいます。これは、そのような人材を企業が求めていると学生が思い込んでおり、実際に、企業からもそのような情報発信が多いことが影響していると考えられます。広島大学において博士の学位を取得した人材は、男女を問わず、新しい分野に挑戦する活力ある人材として必要であることを、社会に示さなければなりません。

一方、女子学生の方が、男子学生より、学部や博士課程前期で就職する割合が高いのは、女性に対する企業の見方を反映しているためと考えられますが、そのように女子学生が思い込んでしまっているだけかも知れません。男女を問わず多様なキャリアパスがあることを示し、そして、企業にも意識改革を促していく必要があります。

男女を問わず、専門分野の知識だけでなく、視野の広い、幅広い知識とコミュニケーション能力を身につけ、新しい分野に挑戦する気概をもった人材を育てること。さらに、彼らが活躍できるように、企業や研究開発機関等とのマッチングを、大学として図ることが必要です。そのためには、大学としても意識改革が必要ですが、現状では、残念ながら、これがまだうまく機能していません。

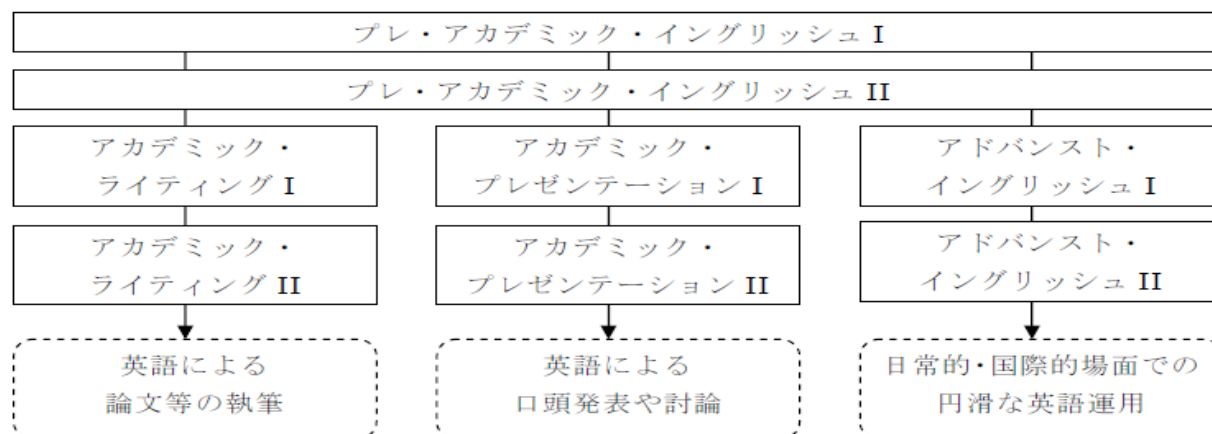
すなわち、これが6番目の課題です。大学院での教育は、閉じられた研究室での、その学問分野の後継者養成という色合いの強いものになりがちです。従前の徒弟制度的後継者養成も、良い面はあるので、その良い面は引き継ぎつつ、活力ある博士の学位取得者を育て、彼らに社会進出させるという大学としての責務を果たさねばなりません。そのためには、大学教職員の意識を変えることが必要です。

実践プログラムの内容

実務キャリアプログラム それぞれの授業科目は1単位。(* : 必要度の高い科目)

| コース名 | 主旨 | 授業科目名 |
|---------|---------------------------|-------------------------------------|
| 社会人基礎力 | どこに行っても必要で、社会人としての原点を構築する | コミュニケーション手法*、プレゼンテーション手法、課題発見・問題解決 |
| キャリアパス | 多様な人生設計をするための基本情報を得る | キャリア設計*、産学連携論* |
| 企業実務理解 | 社会科学の基礎知識とスキルを得て、視野の拡大 | 経済概論*、財務・会計・金融概論、統計・計量手法、法律・法務概論 |
| ビジネススキル | 即活用可能なビジネススキルを得て行動開始を促す。 | 発想法、マネジメント手法*、リーダーシップ手法、ファシリテーション手法 |

英語コミュニケーションプログラム



MOT 教育プログラム

理系学生のもつ高度な専門性を実際の社会に適合させるには、学生が技術経営のセンスを身につける必要がある。専門知識を総合的体系的に捉えることにより、経営のわかる高度専門人材となる。そのために、技術経営(MOT)プログラムを提供する。

- MOT0 : MOT 概論 (導入教育)
- MOT1 : ベンチャー企業論
- MOT2 : 技術戦略論
- MOT3 : 知財及び財務・会計論
- MOT4 : 技術移転
- MOT5 : 日本の経営

融合領域研究プログラム

- ・ 物質科学・生命科学・情報科学の基礎と、その応用としての創薬基盤研究のための講義・実習・演習の授業科目を提供する。大学院の授業科目として正規に立ち上げる科目群から構成する。それぞれの受講者の基礎力に応じて、選択して履修する。
- ・ 様々な分野の企業からの研究者を招聘し、定期的にセミナーを開催する。
- ・ 異分野交流を促進するための寺子屋的コミュニケーションの場を提供する。

異分野研究支援プログラム

- ・ 受講者が、各人の専門領域とは異なる研究テーマを提案する。
- ・ 連携企業との共同研究として、そのテーマを進展させる。あるいは、メンターの支援のもとで、そのテーマに独自に取り組む。

企業派遣プログラム

国内外企業・研究機関への長期インターンシップ及びそれに向けた準備を提供する。

- ・ リスク管理、海外生活、海外での研究生活などについてのアドバイスと講習。
- ・ 連携企業との共同研究とインターンシップ。

以上